

インバウンド需要 取り込むには



「ジャパンマスタートリーコレクション」について語った大西氏

羽田未来総合研究所社長 大西洋氏

インバウンド客の消費額について独自の見解をお持ちです。

「インバウンド客の消費額について独自の見解をお持ちです。」

羽田未来総合研究所社長の大西洋氏は、インバウンド需要の取り込みについて、地方創生と産業化の重要性を強調している。彼は、地方創生が単に観光産業を振興するだけでなく、地域の産業構造を根本的に変革する必要があると述べている。また、インバウンド客の消費額が減少している現状を踏まえ、地方創生を通じて新たな産業を創出し、地域経済を活性化させる必要があると主張している。

大西洋氏は「インバウンド客が買っているのは、円安の恩恵がある海外ラグジュアリーブランドが大半だ」と話す。この状況を打開するため、JMCの立ち上げに奔走してきた。産地企業や国内ブランドを生かしたブランド「SUSAN」(スズサン)のアイテムなどを展開。いずれもクオリティが高く、インバウンド客の注目を集めている。

最前線で日本発ラグジュアリー

日本空港ビルデング、東京国際空港ターミナルは、羽田空港第3ターミナル(東京都大田区)の出国エリア内に地方創生型ラグジュアリーブランド「ジャパンマスタートリーコレクション」(JMC)の旗艦店を昨年12月に開設した。運営は羽田未来総合研究所(同)が担い、インバウンド需要の最前線に日本発のファッションや服飾雑貨、アート作品などを販売している。その狙いについて、大西洋社長に聞いた。

◆ GDPが下がっていきまらに4千万人になれば10

「インバウンド客の消費額について独自の見解をお持ちです。」

大西洋氏は、インバウンド需要の取り込みについて、地方創生と産業化の重要性を強調している。彼は、地方創生が単に観光産業を振興するだけでなく、地域の産業構造を根本的に変革する必要があると述べている。また、インバウンド客の消費額が減少している現状を踏まえ、地方創生を通じて新たな産業を創出し、地域経済を活性化させる必要があると主張している。

慣習打破し地方創生を産業化

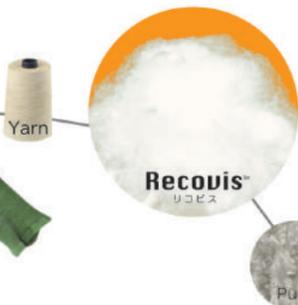


JMCの展示会には多くのメディアが集まった

新しいセルロース繊維、誕生しました

Recovis™

デニムやシャツの古着、不要になった端材から新しいセルロース繊維が誕生しました。



DENIMからDRESSへ



セルロース繊維は、生分解性に優れており、環境負荷低減や循環型社会の構築に大きく貢献する人にも地球にもやさしい繊維です。

sustainable

